



愛川ふれあいの村 今月の風景

## 2023年2月 自然のたより

2月の天気は、雪が降ったかと思えば、春のような暖かさになったり、気温も天気も目まぐるしく変わります。立春と春分の日の間に吹く南よりの強い風、春一番は、同時にスギ花粉も運んで来ます。

2月10日(金)、村では今季初めての本格的な積雪がありました。朝から降り続いた湿気を多く含んだ重い雪は、木々の枝や、しなやかな竹さえも折り倒しました。この時期は低気圧と高気圧が交互にやって来て、いわゆる「三寒四温」の時季です。季節の変わり目で、朝晩の気温差も大きい。日々の気温や天候をチェックして、上手に衣服などで調節し、元気に本格的な春を迎えたいものです。(高梨)



満開のカワズザクラ



ウスタビガの繭



渡りに備えるツグミ



ロウバイ



輝くサザンカ



越冬中オオムラサキ



雪の日のエノキタケ



ルリビタキ



やっと現れたアトリ



カシラダカ



ニホンザル



ビンズイ (セキレイ科)



虫を探すエナガ



マユミの実を食べるメジロ



ショウビタキ♀

## トピックス ★月と太陽★

2023年は2月3日が節分です。太陽暦における新年の始まりは、立春に最も近い新月を基準として、立春に節分が行われるようになったことが一般的だそうです。

太陽暦と太陰暦の違いについて、皆様はご存知でしょうか。その違いは思ったより単純で、太陽暦は「地球が太陽の周りを1周する時間」を基準としているのに対し、太陰暦は「月の満ち欠けの周期」が基準となっているという違いがあります。

太陽暦では、地球は太陽の周りを大体365日で1周をし、4年間で24時間ずれるのを修正するためにうるう年には2月29日があり、太陽暦ではずれが生じた1日分の差を修正しているそうです。

太陰暦では、満月から満月までを1か月とし、大体29.5日だそうです。しかし、この仕組みでは1年が354日で11日足りなくなり、実際の季節とずれがどんどん生じてしまうという問題点がありました。そこで太陰太陽暦が登場し、太陰暦の弱点をカバーするように部分的に太陽暦を使用し、うるう月を設けたそうです。

日本では、明治5年12月3日より太陽暦が使われるようになり、現在も継続して使われています。現在、日本で用いられている太陽暦は「グレゴリオ暦」というもので、太陽暦の起源はエジプト暦とされ、紀元前2900年頃から用いられていたそうです。その後ユリウス暦・グレゴリオ暦へと改良されていき、現在へ至ります。また、太陽暦を使用する以前と以降を旧暦と新暦と呼んでいます。これを聞くと少し馴染みがあるのではないのでしょうか。

太陽暦と太陰暦を知って、月の満ち欠けや旧暦新暦を意識して季節を感じてみましょう。  
(柳)



## 生き物 ★春を待ちわびる★

写真のような野草の状態を、「ロゼット」と言います。直接葉っぱを出し、地面に張り付いているようです。外側に向かって広がる形が、バラの咲き方に似ていることからこの名がついたそうです。村では、「タンポポ」や「ナズナ」などをよく見かけます。

「ロゼット」で冬を越すことの利点は、「風の当たりが少ない」「太陽の光を全面で受けられる」「太陽で暖められた地面の熱を受けやすい」「上方の空間を空けることで、春先に茎を急速で伸ばせる」の4つです。そのため、春に種から芽を出すものよりも、早く花が咲きます。

今か今かと春を待ちわびながら、残る冬の寒さを耐え抜く姿には、強い生命力を感じますね。

(三好)



## 旬 ★ふきのとう★

春が近づくこの時期に、一足先に芽生えるものが春一番に出る山菜の一つ、ふきのとう。

ふきは、キク科フキ属の多年草で、早春の花茎をふきのとう、といいます。ふきのとうを見つけると春の訪れを感じます。

旬のふきのとうは美味しく、また、カルシウム、カリウム、食物繊維などが豊富に含まれています。特に「若返りのビタミン」と呼ばれる老化防止に働くビタミンEを中心に多くの栄養価があります。

独特の香りと苦みがありますが、天ぷらやふき味噌などにして頂くと、美味しいです。皆さんも是非、春の味覚を味わってみてください。(菅原)



来月の見どころ  
**オオイヌフグリの知恵**  
風はまだ冷たいが、春の柔らかな日差しの中で、オオイヌフグリの花が咲いている。辺り一面にコバルトブルーの花を見ると、まるで星を敷き詰めたような気がし気持ちい温かくなる。この花は、明治の頃に日本に入ってきた帰化植物で繁殖力が強いのが特徴である。  
青い筋の入った四枚の花弁が美しく目立ち、花粉を付けた雄しべが二本、中心に白い雌しべが見えその下に蜜が光って見える。  
ミツバチやハナアブなど昆虫類が訪れるが、花に止まるたび細い茎が曲がりしがみつこうとすると沢山の花粉が付き受粉の役目を果たしている。ホソヒラタアブのように軽くてそっと止まっても花粉はちゃんといっている。  
花は一日花で、曇りや雨の日は、花は咲かないが自家受粉と言う働きでちゃんと受粉をして種子を作っている。こんな小さな花たちも、いろいろな知恵があることに感心した。オオイヌフグりはオオバコ科の越年草。(吉田)